

国立大学法人香川大学学長候補適任者所信

平成27年5月19日

国立大学法人香川大学学長選考会議議長 殿

学長候補適任者 氏名

長尾有吾 (自署)

最近、地方創生の名の下に地域活性化が求められ、その核として国立大学の役割が強く期待されています。“地域に根差した学生中心の大学”を標榜する本学は、これまでの大学改革を継承、発展させ、真に社会のニーズに対応した変革をやり遂げなければなりません。

私は平成23年10月に学長就任後、大学を“塊”としてとらえ、香川大学の学部間の連携を強化する提案をしました。そして、地域を活性化する人材やグローバル人材、専門職業人の育成、学内外連携による研究の促進、大学から地域への様々の成果発信に努め、それらを支援するシステムの構築に意を注ぎました。具体的な取り組みとしては、教育、研究、地域貢献を戦略的に実施していくために、学長直属の教育戦略室、研究戦略室、地域連携戦略室を立ち上げ、本学の将来像のもと、迅速に施策が実行できるシステムを構築しました。

教育・人材育成面では、大教センターを改組して大学教育基盤センターを立ち上げ、全学共通教育・教養教育の充実、グローバル教育、地域教育（COC支援）、ICT教育等を一元的に管理し、担当部門の明確化、責任体制を作りました。学生に多様な学修の機会を提供する目的で、“ネクスト・プログラム”や“アドバンスト・コース”を創設しました。特にグローバル教育は重要な領域であり、学長裁量経費を活用して4&1プランに取り組むとともに、五部局にネイティブ教員を配置しました。一方、四国五大学連携“知のプラットフォーム”ではe-ラーニングの基幹校として、また、防災危機管理人材養成では主幹校として、大学間連携にも力を入れています。地域を修学の間として人間力向上を目指す瀬戸内活性化プロジェクトの実施、英語によるディベートができるイングリッシュ・カフェの設置等によって、グローバル人材育成を進めています。学生が在学中にあらゆる教育機会を利用し、積極的にそれに挑戦して、様々な経験や時に失敗・挫折を体験することは重要です。将来社会人になった時に折れない心を鍛えるとともに、新しい体験や失敗を通じて“化ける”人材を育むと確信しております。

研究面では、研究戦略室に本学の研究全体を俯瞰できる外部人材とUR Aを配置し、リーディングリサーチグループを選定し研究を推進しました。またシーズ育成にも意を払い、本学が世界に発信する研究成果、例えば希少糖、防災危機管理、K-MIX、植物ゲノム研究、微細構造デバイス研究、糖尿病研究、瀬戸内の環境保全、文化・アート振興などを推進しています。学内外の人材を集め国際希少糖研究教育機構と防災・危機管理教育研究機構を学内に立ち上げる予定です。この2つの機構によって、研究の進展のみならず文理融合による教育の現場へのフィードバック、生涯学習、地域活性化、グローバル人材育成、国際展開などを目指しています。教育と研究は人材育成のための両輪であり、二領域を活性化させることは大学の発展に重要であると考えています。

また、地域との関係強化のために、教職員学生協働による地域活性化プロジェクトを積極的に支援しています。本学のサテライトオフィスを五か所に拡充し、定期的に教員・学生が“知の拠点”として情報やパフォーマンスを発信し、地域の方々の生涯教育の場として利用していただいています。五市町との包括的連携協定書を締結し、文科省の“地（知）の拠点整備事業”にも採択され、県・市町自治体と一体となって学生の教育や地域活性化に取り組んできました。香川県の積年の問題である“水”についても、“水を知り、守り、創る”をテーマに、学内・学外の組織と協同で研究を推進しています。新しい教育・研究組織、地域活性化プロジェクトなど立ち上げられたのは、多くの先進的な教職員の理解と協力の賜物であり、感謝申し上げます。

管理運営面では、教員組織と教育組織を分離し、前者を人文社会科学系と自然生命科学系に大括り化しました。部局間の教育・研究連携を強化するとともに、人件費の削減による教員数への影響を最小にとどめるためです。環境整備では、耐震化を終了、幸町図書館の改修とオリーブスクエアの増築、医学部附属病院の再開発などを行いました。

現在進行中の大学改革の核は、ミッションの再定義に基づいた各部局の機能強化、大学院改組、教養教育の強化、希少糖研究教育・防災危機管理教育研究の機構化および香川の特性や地域イノベーションにつながる研究推進等です。個表に記載されている組織のスリム化を進めるとともに、ステークホルダーに魅力的な学科の新設等を早急にまとめます。

第三期中期目標・中期計画では、文科省は全国の大学を3類型に分けましたが、本学は地域貢献・特定分野重点支援拠点を目指します。今後、県下の自治体・経済団体等との関係性はさらに重要になってきます。特に香川県との関係は、強化していく必要があります。既に県からは、県内定住者を増やすために、成長戦略に基づいた地域ニーズの高い分野に関する学科、学部の新設提案がありました。現在、その提案を全学改革構想の中に位置づけ、多方面より精査しています。

今、香川大学はさらに魅力ある大学に変わる最も重要な節目の時期を迎えています。私は構成員の協力を得て、地域の持続的発展に寄与していけるよう、職責を全うする所存です。

※ 学長候補適任者としての抱負を含めて、2,000字程度を目安に記入してください。